



教室に入りました。先生やクラスメートは優しいので、学校へ行くのが好きになりました。また、学校に通いながら文化研修も学びました。琉球舞踊と書道と生け花と三線を習いました。文化研修はどれもとても面白かったです。気が付いた時には、日本にいる時間はもう残り1か月で、少ないと思いました。いつも朝起きた時、「充実した1日を過ごしたい」と思いました。沖縄でいろいろなことを学んで、自分の考えは変わりました。祖先のことを学ぶことは、とても大事だと思います。私はブラジル人なのに、祖先が生きていた所で学ぶことができ、私はもっと、ウチナーンチュだと感じます。父はいつも仏壇に「うーとうとう」をする時、祖先に今があることを感謝するようにと言っていました。本当にそれとても大切です。



いつも、懸命に教えてくれた文化研修の先生方、企業訪問先の方々、どうもありがとうございました。ブラジルへ帰ったら、この研修で学んだことを広めて、この交流を続けたいと思います。ここで過ごした日々が忘れられない良い思い出になりました。皆さんに心から感謝しています。ありがとうございました。



▲大学で織物を専攻するナタリアは、うらそえ織結の会で繭引きから織りまでの工程を学びました。



# 沖縄で大切なことをたくさん学びました!

内間 カリン  
祖父(牧港出身)  
ペルー国 3世

みあしる 宮城 ナタリア  
祖父(屋富祖出身)  
ブラジル国 4世

そして、研修が始まりました。最初、日本語と沖縄文化の研修は難しかったけど、一生懸命頑張ったので、この6か月で、習ったことがたくさんできるようになりました。文化研修では、色々なことを学びました。三線や琉球舞踊や書道や生け花を習いました。三線はペルーで少しやっただけなのであまり難しくなかったです。琉球舞踊は、



この6か月で色々な思い出を作ることができました。沖縄に来るとき、緊張してとても心配でした。でも、皆さんはとても親切で優しく迎えてくださったので、私は家族と一緒にいるような気持ちになりました。市長に挨拶し、ペルーのお土産を差し上げ、お話をしました。その様子が新聞に載っていたのでうれしかったです。

## 内間カリン



また、首里城や識名園、中城城など色々な名所へ行きました。沖縄の歴史を学ぶのはとても大切なことだと思います。素晴らしいですが、とても難しいです。書道は簡単だと思っていただけ、書き方はとても難しいと思いました。生け花では、先生がいつも手伝ってくれたので、やり方がちょっとだけ分かってきました。皆さんの沖縄文化のほんの一部ですが、学ぶことができてとても良かったです。



▲二人とも大好きな沖縄そばを生地から作りしました。



浦添市とブラジル・ペルーとの架け橋として頑張ります!

ペルーへ帰ったら家族や友達に学んだことを全部教えてあげるつもりです。沖縄は私の古里だと感じるのでいつても戻ってきます。皆さんに感謝しています。ありがとうございました。



▲歯科医のカリンはふくざと歯科医院で日本の診療技術を学びました。

す。沖縄で色々なことを学んで、色々なことができて、新しい友達もできたので素晴らしいと思います。この研修で沖縄の文化や歴史、生活など大切なものを教えていただきました。これからは自分のアイデンティティになります。



浦添市では、昭和63年から「南米移住者子弟研修生受入事業」を実施しています。南米に移住した浦添出身子弟の中から優秀な人材を選抜し、県内で日本語や沖縄の文化等の研修を受けながら、沖縄に対する理解を深め、帰国後に本市と母国の架け橋として国際交流を図ること目的としています。今年度は6月から12月までの半年間、ブラジル、ペルーから二人を受け入れ、日本語研修や文化研修を実施しました。12月3日に市役所において行われた修了式では、儀間市長から半年間の研修の修了証書が授与され、また、お世話になった身元保証人や文化研修受入先、企業訪問受入先へ感謝状が贈られました。



修了式後には、送別会が行われ、研修生二人が半年間学んできた、日本語、三線、琉球舞踊を発表しました。琉球舞踊では、祝いの席にふさわしく「かぎやで風」で幕を開け、その後「ぬちばな」も披露しました。三線では、「渡りさう」「たちつとっし」「安波節」を演奏しました。また、会場では、研修生が手掛けた華やかな生け花が飾られ、半年間書きためてきた「沖縄」「浦添」などの書道も展示されました。



この研修が決まった時、私と家族はとても喜びました。アトラントでカリンに会って、私たちは英語とポルトガル語とスペイン語と日本語でチャンプルーして少しお話ししました。最初会った瞬間から私たちは仲良くなりました。沖縄はブラジルと違い、自分にとってすべてが新しく、全部学ぼうと思いましたが、バスの乗り方や学校の道や市役所の道などを覚えられました。日本にいるのが好きになったけど、家族に会いたくなくなったり、寂しくなったりして帰りたいかったです。でも、いつも皆さんが応援してくださったので、あきらめるともつたいたくないと思いつきました。日本語学校へ行き始めた最初は、私とカリンだけで勉強しました。2週間後に大きい

## 宮城ナタリア

それでは、沖縄で半年間過ごした二人の思い出と感謝の気持ちを紹介します。